



## 安全装備品と消防活動



熊本県南関町

### 1 はじめに

南関町は、熊本県の北西に位置し、総面積68.96km<sup>2</sup>であり、周りは山々に囲まれた自然あふれる人口約11,000人の県境の町です。町の中心は、東経130度32分・北緯33度3分に位置しており、南北に約11km、東西約10kmの小さな町です。

昔は関所、今は九州縦貫高速自動車の南関インターチェンジを有し、県北の玄関口として発展しております。

昭和30年4月1日、南関町、賢木村、大原村、坂下村、米富村の5ヵ町村が合併し、「南関町」が生まれました。昭和31年1月1日、旧米富村の三ツ川地区が玉名市へ編入し、現在に至っており、来年で合併55周年を迎えることとなります。

基幹産業は、以前は農業でしたが、現在はその占める割合は低下し、企業誘致推進の成果もあって、第2次、第3次産業の割合が8割近くになっています。

### 2 南関町消防団の沿革

南関町の消防団の歴史は、古くは寛永9年(1632)の「関手永火消組」にまでさかのぼります。毎年、新しく年を迎えたばかりの1月の第2土曜日に「南関町消防出初式」を開催します。

この出初式で繰り上げられる勇壮果敢な「放水合戦」は、120年以上の歳月を経た今日まで、永く受け継がれてきているものです。

放水合戦の始まりは、明治15年、当時最新鋭の消防器具であったポンプ「龍吐水」の購入を祝い、川幅15mの竜瀬川の両岸で2組に別れてポンプによる標的落しが行われ、その際に、競技に勝った組が、負けた組にその手押しポンプで水をかけたことが始まりだと伝えられています。

1月の氷点下という極寒の中、ラッパの合図とともに、対岸の相手めがけて一斉に放水し、全身ずぶぬれとなり、川の中に飛び込んだりする火消し男たち…。その勇壮な姿を一目見ようと、町民をはじめ、近隣市町からたくさんの方が訪れます。

南関町の消防出初式は、名実ともに、消防団員の士気を象徴する伝統的な行事として、地域に深く根ざしたものになっています。

平成21年4月1日現在、南関町消防団は、4分団20部、団員定数500人（実員数498人、うち女性消防団員4人）で、予防、消火において地域に密着した活動を行っており、住民からの信頼も厚いと自負しているところです。また、消防車両については、ポンプ車1台、小型動力ポンプ積載車21台を装備しています。



町中をパレードする消防団員



放水している団員

### 3 安全装備品助成前の整備状況

夜間の火災消火や捜索等の活動に際しては、商用電源または、発電機を確保した上でハロゲン式の投光器を活用していましたが、各分団に1基の配備で、照射範囲も狭いことから団員の活動における安全確保に課題がありました。また、ホースブリッジについても各部には配備できておらず、安全な消火活動、ホースの保護に支障を来たしていました。幸い、活動中の大きなけが等はなかったものの、懸念材料であったのは事実です。

### 4 安全装備品の助成を受けて

前述の状況のように、さまざまな課題を抱えているところへ、県の総合事務組合から「消防団員安全装備品整備等助成事業」の紹介をいただき、早速消防基金へ申請したところ、いち早く助成決定をいただき、今回の安全装備品である「発電機付き投光器」、「ホースブリッジ」の整備を果たすことができました。これらの安全装備品の整備により、これまでよりはるかに安全な消防活動が行われることとなりました。ま



発電機付バルーン式投光器

た、主に夜間に実施することの多い消防操法訓練にも活用することで、団員の負傷も防ぐことができるものと考えております。

今後は、さらなる消防団員の消防活動の安全向上のため、研修事業も含めた公務災害防止事業に取り組み、公務災害の防止を図っていきたいと思います。